

令和2年度 県立芦屋特別支援学校 学校自己評価結果 改訂版

※ 達成状況 A判定(3.6未満～3.2以上)よく達成できた B判定(3.2未満～2.8以上)達成できた C判定(2.8未満～2.4以上)工夫・改善が必要である D判定(2.4未満)改善が必要である

※ 評価基準 4点(よくできている) 3点(できている) 2点(あまりできていない) 1点(できていない) 0点(わからない)

学校経営の重点

- ① 児童生徒が安心安全に学べる学校づくり
- ② 児童生徒一人一人に生きる力をつける指導の充実
- ③ キャリア教育・就労支援の充実
- ④ 地域の中で学び地域とともに歩む学校づくり
- ⑤ 合理的配慮の提供を踏まえた教育実践
- ⑥ 訪問教育の充実

NO	分掌等	学校経営	実践目標(本年度の達成目標)	自己評価(数値)	自己評価(達成状況)	総括(成果及び課題と改善策)	学校関係者評価
1	総務	①	家庭や地域、関係機関への情報発信と教育活動の理解啓発を図るため、ホームページを整理し、ブログを毎週更新する。	3.39	A	ホームページは、新しく「行事予定」「進路情報」の項目を設け、校内外の関係者が自由に閲覧できるようにした。休校中は児童生徒が家庭で学習できるような教材を毎日発信した。ブログについては学校行事だけでなく、各部・学年の授業風景や避難訓練、支援部の先生からの記事などを入れて、ほぼ毎週記事をアップすることができた。	学校自己評価では、連携や研究を伴う事柄については、コロナ禍での影響もあったかと思うので、次年度期待ができる。(コロナ禍での創意工夫を含めて)
2	教務	②	個別の指導計画の記載内容を充実させる。	3.06	B	今年度は、前期がコロナ感染予防のための休校で短くなってしまったため、通年制で個別の指導計画を作成した。例年よりも長い期間の指導計画となったため随時見直しや検討を行ってもらうように呼びかけをした。来年度は新しい様式が県教委から出るため、記載内容が充実するように書き方のマニュアル等の検討をしていきたい。	コロナ禍での中止や変更など、学校全体では大きく影響された面も多々あったと思われます。きめ細かく対応をして頂き感謝している。
3	進路指導	③	進路関係情報の迅速な共有と進路指導部だよりや進路説明会、進路相談等による分かりやすい情報発信を通して、学部・学年、および保護者と連携・協力し、ひとりひとりの子どもに合った進路を一緒に考え、実現できるよう努める。	3.23	A	学年や学部と連携し、進路関係の情報の共有を迅速に行った。概ね月1回の進路指導部だよりの発行や高等部の進路説明会、進路相談等を通して、学部、学年および保護者と協力し、ひとりひとりの子どもに合った進路を考え、希望する進路をほぼ実現・達成することができた。来年度に向けては、学年の生徒の実態を踏まえ、進路先の確保をすることが課題である。	学校評価では、保護者のアンケート集計の高さに関して嬉しく思う。
4	生徒指導	②	芦屋市人権教育推進協議会研究大会分科会高等学校教育部門での報告に向けて、高等部3学年と連携・協力して取り組む。	3.12	B	新型コロナウイルス感染防止対策のため分科会は中止となり、書面による報告のみとなった。高等部3年生の18歳参政権に関する学習の実践は計画通り進めることができ、書面による報告も完了した。18歳参政権に関する学習については、次年度も高等部3年生で継続して行いたい。	キャリア委員会の進路指導だよりは、個人的にも為になった。さらに12年間を見通した学校教育を期待している。
5	支援	②	校内支援を充実させ、困ったらすぐに相談できる体制を作る。	3.33	A	coが計画的に校内巡回を行い、いつでも相談できる関係作りをおおむね構築することができた。支援部員の役割をどう高めていくかの課題について今後も検討を続けたい。	進路指導部だよりについて各号とも非常にわかりやすくまとまっていると感じました。特に進路先は独自の用語(一般就労、福祉就労A型・B型、訓練校、自律訓練、生活介護など)が使われてはじめて聞くと非常にわかりにくいですが、1号ずつ丁寧に説明されていてとても良いと思った。

6	地域支援センター	④	地域支援のため、関係機関、教職員、保護者を対象にしたオンライン相談、研修等を行う。高校通級サポート、センターHPの充実を図る。	3.10	B	オンラインで実施した内容は、保護者教職員向けの教育相談、放課後ディ相談事業所を対象にした学校見学会、学校園、相談事業所など支援関係の異業種交流を目的とした地域支援交流会である。巡回相談等で、本校HPの利用を広報した。
7	研究研修	②	児童生徒への理解を深め、適切な指導及び支援方法を身につけるための研修講座を実施し、各部の研究テーマに即した研究の推進を図る。	3.11	B	コロナの影響で予定していた研修が中止になってしまい、先生方に十分な研修の機会を提供することができなかった。各部で研究を進め、研究展示発表会で、研究内容を発表することができた。各部の様子がわかり、取り組みの工夫が好評であった。
8	保健	①	感染症対策として、児童生徒に手洗い・うがい・マスクの着用等の衛生指導を進めるとともに消毒、換気等を呼びかけ教職員の安全意識。危機管理意識を高める。	3.38	A	どの学部でも手洗い・うがい・マスクの着用等の衛生学習に日々取り組むことができた。特に給食では、感染症対策を踏まえた新しい食習慣を身につけるための指導を学年・学部で実施し、部会で情報共有を行った。来年度も引き続き、感染症対策を呼びかけ安心な環境づくりを行っていきたい。
9	管理	①	訓練を通して、災害発生時に、安全で迅速な避難・誘導を行い、どう行動すべきか自ら考える力をつける。	3.28	A	コロナ禍のため、訓練が中止になるなか、昨年度の実施ビデオを編集し全職員に閲覧するなどの工夫を行った。火災避難訓練や総合避難訓練では、避難時の流れを工夫するなど考慮して実施し、校外避難には中学部も新たに参加することができた。来年度は訓練に対する理解をさらに高めてもらうため、訓練の事前学習・事後学習を実施していく。
10	小学部	②	日常生活に必要なスキルの獲得と定着を目指して、前年度の引継ぎをもとに継続した指導を行う。	3.26	A	前年度の担任と連携を取り、細部にわたって引き継ぎを行った上で、児童の実態と保護者のニーズをふまえた個別の目標を定めて、継続した指導を行うことができた。しかし、前年度の担任との連携が取りにくい場合もあるため、今年度の実践についても、引き継ぎシートや個別の資料などが充分活用できるように、その充実を図り、確実に次年度へ引き継げるよう取り組む。
11	中学部	①②	一人一人の実態を踏まえた学習活動を計画的に実践できるよう、クラス会議、学年会、学部会で共通理解を図る。	3.20	A	中学部の自己評価結果についてまとめ全体的にはほぼ良好。概ね共通理解が図れたといえる。ただ、情報共有が難しいことも多く、クラス、学年、学部での共有ができていない。けがをはじめ、指導上のトラブルなど情報共有が必須でも、プレハブで本館から離れていたり、同じフロアでも東西に大きく離れていたりすると、物理的に困難。また担任も自分のクラスの事情で他クラスの情報や応援など困難な場面が多かった。今後も学部会での重要な生徒の情報の共有を、写真等を利用しながらより広く行うことも必要である。
12	高等部	①	学部会や学年会では資料の事前配布や協議予定時間の設定を行い、会議の短縮を図る。そうすることで、各クラス、各学年で意見交換を行う時間を確保する。また、クラス間、学年間に対話のできる雰囲気作りに努め、チームで教育にあたる。	3.20	A	議題に応じて資料配布で済ませるものは配布のみにして会議の省略をしたり、事前配布を行い、時間短縮をはかったりして、時間を確保することができた。クラス内では生徒下校後の意見交換が活発に行われており、学年、学部への報告、共通理解が円滑に進められた。今後もクラス内での意見交換を行えるように環境を整えていく。
13	在宅訪問	⑥	保護者をはじめ医療や福祉関係機関との連携を図り、個々のニーズに応じた授業を行う。	3.37	A	新型コロナに関して授業時の配慮事項を確認し、授業前に検温、着替えをするなどして在宅授業を行った。複数訪問やスクーリングも計画しにくい中、2学期には各々スクーリングを実施できた。PTや訪問看護師との連携も図ることができた。

進路について
コロナ禍のため非常に困難な状況の中ご苦労されている様子が伺える。

(1)生活介護事業所の空きが、なくなってきたのが非常に気になる。保護者送迎が必要であるところが出てきているなど、重度の障害のある子どもさんにとって非常に厳しい状況である。行政などにも理解していただく必要がある。

(2)現場体験実習など事業所の確保にも苦労されている様子。特別支援学校では全国的に同じ問題を抱えていると思う。例えば、特別支援教育課などを中心として(技能検定も今年度どうなったか知らないのですか)情報交換して場合によっては、行政を通して要望を企業の方に出示してはどうか。

新型コロナウイルスへの対応について
非常に丁寧に行われていると感心しました。過去の、ノロウイルス、インフルエンザウイルスへの対応を踏まえて実施されているようである。

ワクチンの接種が始まって、来年度急に感染が治まることは考えにくいので、新しい知見がわかるたびに面倒ですが、少しずつの改訂を行いながら、不要な作業はなく、先生方の負担のないようにつなぐ引き続き感染防止に努めていただきたい。

14	砂子訪問	⑥	教師との関りや児童生徒同士のふれあいを通して、人との関りを育む授業づくりを行う。	3.33	A	今年度は、感染症対策により集団授業の回数がいへん少なく、また、教師との対面授業も制限されたため、直接的な関わりやふれあいを行う機会も少なかった。しかし、その状況の中で、ビデオやオンライン会議システムを活用することにより、教師や他の児童生徒の声を聞き、少しでもふれあいを感じる場面を作り出すことができた。
15	キャリア教育推進委員会	③	各学部が卒業時点で目指す目標について、学部内での共通理解を深めるとともに、他学部の目標への理解を図る。また、3学部の目標の相互の関連を一望できるものを作成する。	3.11	B	各学部で、卒業時点で目指す目標について協議を重ね、共通理解を深めることができた。簡略版が完成し、3月の学部会、職員会議で承認予定。この過程で、3つの学部の目標とその学部間の関連についての理解が進むと思われる。来年度は詳細版の完成を目指して取り組み、更に学部間の理解を図りたい。
16	交流及び共同学習推進委員会 (小中学部)	④	児童生徒の経験・活動の場を広げて社会性を培い、地域の人たちや子ども達に本校児童生徒がともに社会で生きる仲間であることの意識を育み、この教育に対する正しい理解と認識を深める。	3.20	A	今年度は感染症予防の為の休校や校外への活動の制限があり、直接的な交流は制限された部分が多かったので、できる範囲での交流を行った。居住地校交流では、手紙などを送りあう間接的な交流や、時期を見計らって2学期には居住地校に出向いて授業や行事に参加できた。また、地域交流は規模は縮小したものの、予定通り実施できた。学校間交流は集まる人数が多いことから全て中止になった。来年度以降もマスク着用など感染症対策を講じた上でできる限り実施していきたい。
17	交流及び共同学習推進委員会 (高等部)	④	交流及び共同学習のねらいを明確にし相手校と相互理解を深める。掲示などを通して全学部に対し活動の内容を周知する機会を持つ。	3.29	A	今年度はコロナ感染予防のため、交流活動は非常に難しかった。県西とのオンライン交流は成功に終わったが、実際に活動に参加した生徒数はとても少なかったため、コロナ禍でもより多くの生徒が参加できる交流の方法を模索していきたい。活動内容の周知については保護者にはブログ、教職員にはGaloonを利用した。

